7月11日 第3回まちづくり評価委員会 会議概要

日 時：平成20年7月11日（金）14:00～16:00

場 所：消防局庁舎3階第2会議室

出席者：（出席委員）

金井副委員長、駒井委員長、榊原委員、四宮委員、鈴木委員、田中委員、
長井委員、西原委員、三村委員、室谷委員、森川委員（50音順）

（事務局）

福本政策担当課長、黒澤主査、竹田、田部井

欠席者：菊池委員

傍聴者：1名

資 料：別紙のとおり

概 要

（開 会）

福本政策担当課長の司会のもと、会議資料の確認および欠席委員の連絡を行った。

会議概要の内容確認について

第1回分：事務局（竹田）より、長井委員から意見の修正依頼があったことを報告。他の委員に修正箇所がないことを確認し、第1回まちづくり評価委員会の会議概要を確定した。

第2回分：榊原委員より意見の修正依頼あり。他に意見修正がないことを確認し、第2回まちづくり評価委員会の会議概要を確定した。

第1回まちづくり評価委員会における調査依頼の報告

『アンケート結果における、「現在」と「以前との比較」の相関について』

（事務局：竹田）

- ・ 現在について「思う」と答えた人が、以前との比較で「よくなっている」と答えているかというように同じ回答となる割合を問13まで調べると、各設問40%～60%になる。平均でも55%程度。非常に相関は強いと感じている。

（駒井委員長）

- ・ 「思う」+「やや思う」、「あまり思わない」+「思わない」でみると、割合はより上がるのではないか。

（事務局：竹田）

- ・ 上がると思う。数字を見てもみないとわからないが、80%近くになるかもしれない。

『「多くの人ができるまち」における、年齢別×性別での調査結果について』

(事務局：竹田)

- ・ 現在については、50～59歳女性の平均スコアが最も悪い。続いて20～29歳男性、40～49歳男性の平均スコアが悪くなっている。以前との比較については、30～39歳男性の平均スコアが最も悪い。続いて20～29歳男性、50～59歳女性の平均スコアが悪くなっている。

この結果を見ると、多くの人ができるまちについては、退職する男性の不安が大きいと見ていたが、50～59歳女性の満足度が最も低いので、この点に注意しておきたいと思う。

(田中委員)

- ・ 現在についてみると、通常、30～39歳では女性より男性の方が「思わない」という割合が多くなるはずであるが、女性の方の割合が多くなっている。これは、子育てを終えて働きたいと思う女性が増えていることが原因ではないか。また、40歳以降でも各年齢層で6割近くの人か思わないと回答している。この点も、雇用を考えていくうえで政策的に考えなければならない。

1 検討事項について

将来像4 安全で安心して暮らせる社会
犯罪のないまち横須賀

検討事項12

犯罪発生件数が大幅に低下しているにもかかわらず、満足度が低いのはなぜでしょうか。アンケートでは外国人に対する不安が理由として挙がっています。また、市の施策としては、地域の防犯パトロールと防犯カメラ設置が中心ですが、効果的な対策はあるのでしょうか。

(田中委員)

- ・ 犯罪発生件数は、刑法犯や窃盗犯など全ての犯罪を含めているのでは。地域の防犯パトロールや防犯カメラは比較的效果のある対策であるが、刑法犯に対しての防犯ではなく空き巣などの軽微な犯罪に対しての対策である。満足度が低いのは、外国人の犯罪による体感治安が悪いからだと思う。
- ・ 市の施策として効果的な対策を考えるのであれば、体感治安には効果は小さいが、地域ぐるみの防犯パトロールをより充実させることが、今後も有効な対策であると思う。防犯カメラについては、犯罪の抑止にはなるが、プライバシーの問題もあるので注意が必要。

(室谷委員)

- ・ 横須賀は米軍基地を切り離しては考えられない。米軍人が起こす凶悪な犯罪が横須賀のイメージを悪くしている。
- ・ 市は基地問題を別枠で捉えているのではないか。防犯を考える時には、基地問題も含

めて考えなければならない。米軍人の犯罪が発生すると、米軍によるパトロールが行われるが一時的なものである。市は米軍に強く申し入れ等を行い、市民に常に米軍がパトロールを実施している印象を持ってもらわなければ悪い考えは少なくなる。

- ・ 県の計画には、騒音問題や基地の返還、米兵の犯罪における協力申し入れ等の基地問題が必ず入っている。市にはこのような内容がない。今後は、基地問題をきちんと位置付けしなければならない。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ 安全・安心を議論する際、基地問題は切り離して考えることができない問題であると思っている。市では3年前に「市民安全課」を設立し、市と米軍が相談する機会は増えている。米軍との距離は縮まっていると感じている。
- ・ 米兵による殺人事件が発生した時に、全兵隊に対する教育の徹底を申し入れている。地元の町内会、行政等に加え、米軍も参加している防犯パトロールを月1回行っている。
- ・ 犯罪の分野については、力を入れて取り組んでいるが、市民に伝わりにくい分野であると認識している。今後は、市の取り組みについてより分かりやすく伝えていかなければならないと思っている。

(西原委員)

- ・ 満足度が低い理由は2つある。1つは、外国人、特に米軍に対する不安である。米軍人が起こす事件が大きく報道されているので市民は不安を感じている。もう1つは、地域での防犯情報の多さである。市民の注意喚起になり、パトロールの強化などの良い面はあるが、犯罪が多いというイメージにつながる面もある。
- ・ 市民の防犯意識が高いので、このことがまだ防犯について充分ではない等の意見を導き、満足度を低くさせていると思う。数字については気にしなくてよいのでは。

(榊原委員)

- ・ 神奈川県での取り組みとして、子供はPM11時には帰そうという取り組みが新聞報道された。夜通し仲間と話せる場所といった「居心地の良い場所」に人は集まりやすく、青少年の犯罪の温床の場になりやすい。また、そういう場は広がっていくので、今後はこの点にも注意してもらいたい。

(室谷委員)

- ・ 全国的にファミリーレストランやコンビニエンスストアの深夜営業を規制する動きがあるが、これは若者の犯罪を阻止するという狙いもあるようだ。深夜に集まれる場があると、若者の犯罪を増やしてしまうと思う。

(森川委員)

- ・ 米軍の問題が大きいと思う。市外の人から横須賀は危険と思われ、ステレオタイプが広がっている。基地を観光スポットとして捉え、市民レベルでの交流ができる明るいイメージを持つことで悪いイメージを変えることができると思う。
- ・ 犯罪は減ってきている。また、安全で安心して暮らせるまちになってきていると思う。昔と比べ交番に警官がいるので、安心して暮らせると感じている。

(駒井委員長)

- ・ 犯罪発生件数が減っていることと市民の安心感とはつながっていないようである。犯罪の種類別に統計があると思うので、その結果を見れば凶悪犯罪の発生件数と市民の実感が乖離しているかが分かるのでは。

(金井副委員長)

- ・ 満足度が低いのであれば、低いことを説明できる指標を設定しなければならないのではないか。アンケート結果を説明できる指標がないと、対策を立てられない。端的に言えば、外国人の犯罪件数、米軍基地の犯罪件数という数値はどうか。基地と交流し、対策を立て、協議会を開いているにも関わらず満足度が低いことの原因を分析しなければならないと思う。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ 外国人の犯罪件数などのデータを市で持っているか調査しておく。

(鈴木委員)

- ・ 横須賀が軍港都市であることを念頭に置いて話すと、戦前や戦時中では、軍人が犯罪を起こすとマスコミで大きく騒がれていた。ましてや、外国の軍人が起こした犯罪となると、マスコミも取り上げるので市民を煽る結果となっている。日本に限らず外国の軍人に対しても教育を行うという考えを持たなければならない。

(榊原委員)

- ・ 横須賀のもつ危険というイメージは基地とつながっていると思うが、平和で静かなところがいっぱいあることをもっとアピールしていかなければならない。

(三村委員)

- ・ 学校からの観点では、外部評価や第三者評価における保護者・学校評議員の意見の中の、子供の安全についての関心が高くなっている。防犯カメラを設置しているが、台数が少なく学校の出入口全てを監視できていない。そのため、地域の人たちが見守りパトロール隊として子供たちを見守っている。PTAでも校外委員会を中心に月1回登下校を見守っている。
- ・ 学校に対し子供の安全を求めるだけでなく、子供たちの親である保護者がもう少し取り組みに積極的になってもいいのではないか。地域の関わりが小さくなっているので高めなければならない。
- ・ 防犯カメラもよい対策であるが、人を配置することの方がより安心感がある。退職した警察官がスクールガードナーとして活躍しているが、人数が非常に少ない。施策として人の配置を考えれば、安全に学校に通えるというPRになるのではないか。

災害に備えのあるまち横須賀

検討事項 13

アンケート結果によれば、施策の方向性の中で現状について最も満足度が高く、公共施設やインフラの耐震性向上、物資の備蓄などにより、市民の実感が高まっていると考えられます。

行政が主体となる部分は、充実してきており、個人、地域の活動（自助・共助）を誘導することへ一層シフトしたいと考えますが、どうでしょうか。

（室谷委員）

- ・ 災害が起きた時、3日間は自分でなんとかするという考えが一般的にはある。地域や行政の助けがあるまでの間は、自分でなんとかするという考え方はアピールしていかなければならない。
- ・ 横須賀の土地柄として土砂災害やがけ崩れの危険性があるので、危険地域の周知が必要だと思う。
- ・ 災害が起きた時、市としてどう対応できるのか周知を行い、自助・共助についても周知していく。自助・共助にシフトすると市は何もしない等の反発があるかもしれないので、両面から取り組まなければならない。

（駒井委員長）

- ・ 質問の意図として、自助・共助に対して市の誘導策が足りないとの考えか。

（事務局：竹田）

- ・ そうではなく、今まで強調してきた対策が学校の耐震の関係なので、耐震が終わった後の対策としてどういう方向性があるのかご意見を聞きたい。

（四宮委員）

- ・ 横須賀はトンネルや山が多いので、災害時に導線が切れないう対策を立てなければならない。備蓄などの対策が充分であれば、輸送路が災害時に通れるよう整備を進め、また、通信網についても繋がるかを検証し、次のステップに力を注がなければならない。

（鈴木委員）

- ・ まだ検討段階ではあるが、市民安全課の平成21年度からの取り組みとして、弱者の人の情報が災害時に地域に提供されるような仕組みが検討されている。これが、福祉部門でなく安全の部門から出たというのは良いことだと思う。

（西原委員）

- ・ 災害のことを考える場合、一般人とは別に、障害者をどう守るのか考えなければならない。現在は、特に知的障害者に力を入れて取り組んでいる。
- ・ 自助は家庭での備えであり、共助は町内会などの自主防災組織だと思うが、町内会の自主防災組織では、個々で取り組むよりも近隣の組織と連携するような取り組みが進められている。また、防災訓練では弱者をどう助けるかという内容を取り入れて行っているが、訓練の参加者が少ないので訓練に参加してもらうよう呼びかけなければならない。今までのやり方を見直し、助け合いを広げ、地域の体制作りを進めなければならないと

思う。

(森川委員)

- ・ 横須賀は外国人が多いので、外国人に対するサポートも必要。防災のパンフレット等は英語だけでなく他の言語でも作成し、様々な人に対応する必要があると思う。ジャパンフェスタの防災ブースにいたが、タイ語などの要望もあった。

(田中委員)

- ・ 自治体の中には、公共施設の耐震整備が整うと、個人宅の耐震補強に補助金を出す自治体が出てきている。これは、阪神淡路大震災のような大地震が起きた場合の公道復旧にかかる費用と個人宅の耐震性向上の費用を比べた場合、個人宅の耐震性を向上させたほうがよいという考えに基づくものである。
- ・ 障害者や外国人に対する施策を行っても、トンネルが崩れれば何もできなくなるので、行政が備えるべき災害対策として、徹底的に基盤について整備することを検討してはどうか。

(三村委員)

- ・ 横須賀には原子力空母の問題やGNF、立教大学の研究所があり、原子力や核に対してアレルギー的に反応する市民が多いと思う。市内には放射能を扱っている施設もあり、モニタリングポストを各所に設置し定期的に測定をしている。市が安全に対して取り組んでいることを市民にPRすることで良い方向に向くのであればPRするべきであるが、知らない人に対し不安感を与えてしまう結果を招いてしまうかもしれない。この点を市はどう認識しているか。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ 市民に対して隠す話ではないと思っている。市では地域防災計画の原子力防災対策計画編を平成19年度に改訂したが、作った計画を市民に対しきちんと周知していく必要があると考えている。

(室谷委員)

- ・ 事故が起こらないためのシステムを県が作っているのに市民が知らないことは問題なので、周知する必要がある。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ 原子力防災は法で細かく規定されている。安全のためのシステム管理等も規定されており、少なくとも国内の施設については、厳しく規制がされている。今後は、米軍艦船についても、市民を交えた有効な訓練ができるよう、検討していくことが必要と考えている。

検討事項 14

市民の満足度が高い割に、(障害を感じさせないまちと比べても)優先すべき項目の順位が低くないのですが、このことについてどのように考えればよいでしょうか。

(駒井委員長)

- ・ 地震などの災害対策といった安心・安全の分野に対する優先順位は低くならないのではないかと。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ 災害の分野は、「現在について」でも「以前との比較について」でもよくなっている分野ではあり、横須賀市の学校耐震も進んでいるので、この点で市民の満足度が高くなっているのではないかと。順位が低くないことは、まだ充分ではない項目があるという市民の実感と考えることもできる。ハード面には、学校などの耐震が終了しても橋やトンネルの整備が残っており、またソフト面には、弱者に対する支援が明確ではないという考えがあるのかもしれない。

(田中委員)

- ・ 満足度をもとに政策を打つと大変なことになる場合がある。例として、教育と福祉の分野にいくらお金をかけても満足度は上がらないことがあげられる。バリアフリーを進めると、以前より良くなったという意見は極端に現れるかもしれない。しかし、現状が満足か不満足かを聞かれるとまず満足ではない。現在の満足度を上げるためには多額の投資をしなければならないが、それで満足度が上がるかは分からない。同じように、災害の分野もどうすれば満足度が上がるかは分からない分野である。そういうことを考えると、施策の判断においては満足度の高さではなく別の視点を持たなければならないと思う。

2 新世紀ビジョンの目標「元気な横須賀」について

(駒井委員長)

- ・ 将来像や施策の方向性の中でどれが重要と判断するのは、難しい。

(事務局：竹田)

- ・ 市民アンケートの結果を素直に読むと、満足度が低く優先すべき課題は「犯罪」「働く場」「子育て」となるが「元気な横須賀」という視点から見たときに、そこに重点化して実現すると思うかを聞きたい。

(金井副委員長)

- ・ 新世紀ビジョンが正しければ、どの項目も同じ比重を持つはずで、満足度の低い「犯罪」「働く場」「子育て」に重点化すれば「元気な横須賀」が実現するということになると思う。
- ・ ただ、受験に例えると、苦手な科目の偏差値を上げて全体の底上げをするのか、得意な科目を伸ばすことによって弱点を別の箇所に取り戻すことで全体を上げるのかという問題は残るかもしれない。

(榊原委員)

- ・ 4つの将来像のどれも欠かすことのできないものだが、かつて横須賀は元気であったと思っている人にとって、横須賀中央以外のまちのイメージはダウンしているのではないか。多くの人が訪れることが「元気な横須賀」のイメージに繋がると思う。

(田中委員)

- ・ 新世紀ビジョンに掲げた目標に向けて、4つの将来像が戦略である。
- ・ はじめたばかりで、戦略が間違っていたかという判断はできないので、全てを着実に進めるべきだと思う。
- ・ むしろ将来像ごとの取り組みが有効だったか、取り組みが足りない部分があるのかを評価していくことが重要である。
- ・ 新世紀ビジョンを見直す必要はなく、見直すべきでもない。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ ビジョンそのものを現時点で見直すという考えはない。

(駒井委員長)

- ・ 来年もアンケートを実施し、今回と結果が違ったら市の重点分野が変わるということには疑問がある。
- ・ どれが大事というのはあるが、どれが大事ではないということはない。

(金井副委員長)

- ・ アンケート結果からも委員会の議論からも、ストレートに考えれば「犯罪」「働く場」が、市政にとっての大きなテーマに見える。事務局に何か違和感があったのか。

(事務局：竹田)

- ・ 参考に「元気な横須賀」との相関を見たときに「犯罪」「働く場」に関してはあまり高くなかったことが引っかかっている。

(榊原委員)

- ・ ガイドツアーの募集は年間幾つもあるが、ベースツアーなどは大勢の希望者がいて倍率が2倍以上にもなっている。交通（バスの定員数）などの関係で人数制限をしているツアーもあり、せっかくの機会を逃している気がする。

(長井委員)

- ・ アンケート結果を見ると、犯罪がないまちと高齢者の働く場が課題であると思う。
- ・ 市民安全条例の検討資料では、安全で快適に暮らせるまちの中で、犯罪、交通事故、がけ崩れ、谷戸の問題の満足度が低かったようである。
- ・ セキュリティタウンが好評のようなので、建築確認の中で防犯関係のチェックも取り入れてはどうか。向こう三軒両隣キャンペーンも犯罪・防災面で効果があると思う。
- ・ 防犯・防災については、完璧・100%これでいいということはないので、できる限りの取り組みをし、広報していくしかない。
- ・ 働く場については、子育てを終えた女性やリタイアした人が、フルタイムではなくても自分の培った能力を発揮できる機会ができると良い。経済面より、生きがいを求める

気持ちの方が強いのではないか。

- ・ シルバー人材センターをうまく活用できないかと思っている。

(鈴木委員)

- ・ 将来像の2が重要である。小児医療対策などにより、子どもを育てやすい、子どもにやさしいまちにすることで、にぎわいにもつながるのではないか。
- ・ そうすることで、長い目で見れば、いいまちになると思う。
- ・ やはり経済的な支援が必要ということ若い人に聞いたことがある。

(西原委員)

- ・ 4つを並行に進めていければよい。どれも大切である。
- ・ 元気という将来像1～3のイメージであるが、安心・安全はベースとして重要である。
- ・ 自然環境、きれいなまちというような環境との関連からも安心・安全は重要であると思う。

(駒井委員長)

- ・ 全部進めるということで、まとめにしたい。

3 まちづくり評価委員会報告書(平成20年度)について

資料の内容について事務局(竹田)が説明。

(榊原委員)

- ・ 多くの方が働くことができるまちなどに関連してくるが、横須賀中央と西地区は自然環境などが全然違う。
- ・ 西地区では冬場、畑地に出荷されないキャベツや大根が捨てられているのをよく見かける。捨てる前に加工することで主婦たちの仕事を作っていくことができないかと思う。野菜だけでなく地場の魚なども含めて、おいしくてブランドになるような加工品ができればよい。
- ・ 横須賀のお土産では、海軍カレー以外にも横須賀らしいお土産が欲しい。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ にぎわいを生む社会に具体的に書きたい。

(三村委員)

- ・ 美術館、ソレイユだけではなく、横須賀に残る歴史や文化をPRしていてもよいと思う。

(榊原委員)

- ・ ソレイユ、花の国、久留和の畑地など、花の美しい場所があるので、千葉の花畑のように買って帰れる場があると良い。

(長井委員)

- ・ 「黒船」「開国」「ペリー」「海」「港」「ドック」「米軍基地」「ドブ板通り」など横須賀をイメージさせるキーワードを有機的に結びつけることで、活性化につながらないかと考えている。
- ・ 米軍基地は悪いイメージが強いが、イメージを逆転させて日米親善のまちというようにできるとよい。
- ・ 開放日には多くの人が集まるので、基地は悪いイメージだけではないと思う。

(榊原委員)

- ・ 浦賀ドックの活用も考えて欲しい。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ 開国の歴史、近代産業と合わせて活用していきたいという方向を検討したが、土地の持ち主とも相談しながらということになる。

(鈴木委員)

- ・ 東京から来ると、JR横須賀駅に降りるケースもある。周辺環境をなんとかする必要があると思う。

(駒井委員)

- ・ 駅のホームから海が見えれば改善すると思う。

(森川委員)

- ・ 高校生、大学生にとって横須賀をPRする人の存在も重要になる。友達の中には上地雄輔さんや小泉孝太郎さんのファンがいて、出身地であれば行ってみたいというようにきっかけもあるようである。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ 市制100周年に関連して横須賀大使を創ったが、残念ながら上地さんは入っていない。人を介してのPRは効果的であると思う。

(室谷委員)

- ・ 横須賀大使の有効な活用ができていない。新しい人も任命するなど活用方法を考えて欲しい。

(駒井委員長)

- ・ 将来像4についての意見も出たので、1～4についてもう一度確認することとしたい。

今後のスケジュールと進め方について

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ 委員会の意見は、部局評価に活用していきたい。
- ・ 7月16日ごろに報告書原案を送るので、原案に対してご意見をいただきたい。
- ・ 締め切りは、送るときに設定する。

- ・ ご意見をいただいた後、委員長と事務局で作業を進めるので一任をいただきたい。
了承
- ・ 委員会の任期は3年間であるので、来年度も同じ時期に開催する予定である。
- ・ その間に連絡事項などがあれば、事務局へ連絡をお願いしたい。

(閉会)

閉会にあたり、所用により欠席の企画調整部長に代わり、福本政策担当課長が委員にお礼を述べた。

(事務局：福本政策担当課長)

- ・ いただいたご意見がうまく主管部に伝わるよう、事務局として努力していきたい。
- ・ 今後、企画調整会議で検討する中でも、意見を生かしていく。
- ・ 評価の結果がまとまったら結果を送るので、来年度の参考にして欲しい。
- ・ 初めての試みで、事務局も手探りの状態だったこともあり、迷惑をお掛けしたが、来年度に向けて改善していきたい。
- ・ 貴重なご意見をいただきありがとうございました。

以上